

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500099		
法人名	有限会社 ケアつかさ		
事業所名	グループホームコスモやよい		
所在地	大分県佐伯市弥生大字山梨子828番地		
自己評価作成日	平成28年6月1日	評価結果市町村受理日	平成28年8月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4490500099-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古府国亭番館 !F
訪問調査日	平成28年7月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームコスモやよいが開設して9年が経ちました。入居者様との出会いを大切な縁と思い、心身ともに健康で、安心して過ごしていただくために、私達は何をすべきか、何が出来るのかを考え、話し合い、実践してきました。入居者様は皆個性豊かで、自分の生活リズムでゆっくりと好きなように過ごされています。職員は、入居者様と喜怒哀楽を共にしながら個人を尊重し、かつ調和のとれた共同生活を維持できるように努めています。今後も職員一同初心を忘れずに、事業所の理念である「一人ひとりのハートを大切に」「寄り添う介護」「その人らしく」に添って、本人本位に日々介護に取り組んでいきたいと思ひます。また、入居者様が安心して地域での暮らしを続けられるように、地域活動や人々との関わりを大事にしながら努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園風景が窓から一望出来、小川の水音が気持ちを和らぐようにやさしく流れるなど、真に自然環境に恵まれた立地の中で、ゆっくりと生活がおくられています。利用者への対応も個性を重視し、その人らしさを大切にしながら支援されています。また、職員の資質向上を常に目標とし、色々な研修等にも積極的に取り組みがなされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を玄関と事務室に掲示しています。毎朝朝礼時に理念を復唱して実践につながるように努めています。また、理念の大切さを職員会議等で話し合ったり、折に触れて意識できるようにしています。	毎日の引き継ぎや毎月開催する職員会議・ミーティング等で理念の共有を行い、支援に取り組まれ、職員採用の時も理念を説明され、事業所の方針を伝えるなど、利用者への支援体制が構築されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方と挨拶を交わしたり、話をしたりします。野菜の作り方を教えてもらったりすることもあります。	近くで開催される、お祭りの神楽見物など地域行事への参加や近くの小学生が施設を訪れたり、中学生を対象にした福祉体験学習などに取り組まれるなど地域との交流がなされています	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム連絡協議会の主催するオレンジカフェに参加して、認知症の方と触れあい、支援の方法を話し合ったりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日頃の活動報告や入居者様の様子を報告して、出席者からそれぞれ意見を聴き、サービスの向上につながるように努めています。	毎回6～7名の委員で取り組みがなされ、日頃の活動状況はもちろん、自己評価・外部評価、改善点等も報告され、委員から施設に対する意見を聞くなど有意義な活用がなされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の包括支援センターの職員の方に参加してもらい、市の介護保険に関する情報をうかがったり、困難事例について相談したりしています。	介護保険の改正・認定更新などで窓口へ出向いた時、利用者の近況や変化などの意見交換が行われ、地域包括支援センターの職員が来所の時は利用者の状況を相談されるなど、連携が保たれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束をしないという意識を持ち、日々の介護に努めています。	毎年身体拘束に関する研修を外部・事業所内で取り組まれ、職員間で共有がなされ、外出しそうな気配を感じたら、無理な抑制はせず、見守り・寄り添いを基本に支援がなされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する勉強会を職員間で行い、意識の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護が必要なケースが生じた場合には、関係者と話し合い、支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご家族に契約書を渡して説明します。疑問点や不安な事を聴いたり、法改正の際には十分な説明を行い、理解されたいうえで署名押印をしていただきます、		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置していますが活用されていません。入居者様には生活のなかで意見を聴いたり、ご家族には面会時に要望を聴いたりしています。	意見箱は、いつでも活用できるよう設置がなされ、家族会・面会時に意見・要望が出やすいよう職員全員で配慮され、事業所だけでなく、市役所・地域包括支援センター等で云えるなど説明をなされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング等日頃から職員の意見を聴いて、代表者に伝えて運営に反映できるようにしています。	利用者の支援方法について、職員の意見を参考にしながら、行事や事業運営に参加でき、個別相談に応じられる環境作りに取り組みがなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は事業所に立ち寄り、職員の勤務状況を把握しています。職員が向上心を持って働けるように意見を聴いたり、職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケア向上のため、外部から講師を招いて職員研修を行いました。また、資格所得のための講習や研修会の参加のために勤務調整をしています。月に1度事業所内で研修を行います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会やグループホーム連絡協議会の活動を通じて情報の交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居時に本人と話をし、困り事や不安なこと、思いや要望を傾聴するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時にご家族の困り事や不安、要望を傾聴して、よい関係づくりができるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に関わる相談で、本人やご家族の意向を聴いてどのような支援が必要なのかを見極めて、事業所としてできる限りの支援や対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の喜怒哀楽に共有しながら、一緒に過ごすように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた時には、ソファと一緒に座って話をしたり、本人様の居室でゆっくりと過ごせるように配慮しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の出身の地域での思い出話や歌などを聞かせてもらい、皆で話し合えたり歌ったりできるように支援しています。	重度化に伴い、少しずつ交流が薄くなっていますが、本人を支えてくれた人など、今までの人間関係を把握され、家族・知人・友人等への連絡が出来るよう継続的な支援がなされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格やその時の気分の状態を把握して、不穏にならないように見守りながら、入居者同士がなかよく関わる事ができるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された入居者様のご家族に会ったりしたときには挨拶をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の思いや意向、困り事などを聴くようにしています。自分から話すことができない場合には、ご家族の意見を聞いたり、職員間で本人本位に検討するようにしています。	体調・顔色・食事量等で、本人の思いを察し、個別援助・外出支援など意見が出しやすい環境作りに取り組まれています。家族の面会時に、本人の意向を確認し支援に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時に本人やご家族から生活歴等を聴いています。入居後も話をしていく中で少しずつ聴きながら、今までの暮らしを把握できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、一人ひとりの心身状態を把握して接するようにしています。日によってできることやできないことが変わりますが、本人が混乱することのないよう現状に応じた対応をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聴いて、介護計画を作り、職員間で話し合います。	認定更新後は、モニタリングの中で精査し、本人・職員・家族等で協議し、本人の状態が変化・要望等が生じた場合介護計画の見直しに取り組まれるなど、本人本位の計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様毎にケース記録があり、その日の生活の様子やケア内容、結果、気づき等を記録して、職員間で情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や要望に応じて、外出など柔軟な対応ができるように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように、地域資源を把握して活用していきたいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望により、かかりつけ医を決めています。本人、ご家族、職員が安心出来るように主治医と良い関係を築くよう努めています。	本人・家族の希望する主治医となっておりません。受診に関しては、職員による通院介助や家族との通院に協力しています。それぞれの主治医と連絡を密に取り、医療機関と良い関係を築くよう努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置しておらず、受診時等に病院内の看護師に状態や気づきを相談したり、アドバイスを得たりしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院の連携室と連携を取り合いながら、状況の把握や退院の調整などを行います。また、面会に行くことにより本人の状況確認をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応については、家族の意向を聴いて、事業所としてできる限りの対応をしていくように努めています。	入所時に、事業所として出来る事の説明をしています。利用者の体調や家族の意向をその都度最優先させながら医療機関と密に連絡を取り合い、事業所としての出来る限りの対応に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変時や事故発生時に対応できるように、事例を挙げて話しあったり、マニュアルをもとに実践力を身につけていきたいと思っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行います。地震や火事を想定して入居者様の避難訓練や消火訓練、通報訓練を行います。地区の方には災害時の協力支援をお願いしています。また、事業所のみで避難訓練を行い経験を積むようにしています。	年2回の防災訓練を行い、地震や火事を想定し利用者や外部の方と共に避難経路の確認等を行っています。消火器を使った訓練を定期的に行っています。	災害時を想定した備蓄の確保の徹底を希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様にあった言葉かけをしています。プライバシーを尊重し、誇りを損なわないように努めています。	プライバシーの研修を定期的に行い、常に一人ひとりの人格やプライバシーに配慮された対応をされています。プライバシーを損なっていないかの気付きが常に出来る職員間の関係が築かれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、本人の希望や意見を聞いて自分で決めることができるような場面を作ったりしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人が持つ自分のペースで生活できるよう、無理強いないように心がけています。気分よく過ごせることが大切だと思っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの服を選んでもらったり、身だしなみを整えたりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の材料を取り入れてバランスよく調理しています。入居者様にもテーブル拭きや、茶碗洗いを手伝ってもらったりしています。	利用者との会話から、好みや希望を聞いて献立に反映したり、イベント食を、年数回行い食事を楽しんでもらえるよう努めています。利用者に合わせ、出来る事をお願いしたり、食事を楽しむための支援に取り組まれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事や水分量のチェック記録しています。また、入居者様の状態に合った形態で食べてもらっており、できる限り自力摂取できるように声かけをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施して記録をしています。自分で十分にできないところは介助をして、清潔を保っています。義歯は週1回洗浄剤を使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を記録して把握しています。尿意のない入居者様は時間誘導したり、車椅子の方は手すりを持って立ってもらい、できる限りトイレで排泄できるようにしています。	排泄チェックシートは、全職員が把握できる体制が整えられており、利用者の支援につなげています。自立のための支援に積極的に取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便をチェックシートで確認し、便秘の予防のため水分補給に努めたり、腹部マッサージ、ラジオ体操等の運動を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や血圧等を確認して入浴をしています。順番を決めずに、声かしながらタイミングよく入浴できるように心がけています。	利用者の希望や体調に合わせて、一人ひとりにあった入浴支援に取り組まれています。入浴剤を気分に合わせて変えてみたり、入浴を楽しんでもらえるよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の生活習慣やその日の過ごし方、体調に応じて、安心して眠れるように居室誘導して休んでもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前に、名前や用量の確認をして誤薬のないよう、またきちんと飲み込むの確認して確実な服薬に努めています。また、症状の変化の様子観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんだり、新聞折りや箱折り、茶碗洗いや雑巾がけ、花の水やりや草むしりなど、できることを職員と一緒にしてもらうようにしています。率先して動いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣を散歩したり、出身地方面へ車中で昔話をしながらドライブに行ったりしています。また、地域の祭りに参加をして楽しんでいきます。	事業所周辺は、季節を感じられるととてもいい環境でその日の気分に合わせて近所を散歩したり、車でドライブに行ったりなどの外出支援に取り組まれています。年に数回は、少し遠出をして軽く食事をする外出支援に取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でのお金の管理は難しいので、一緒に買い物に行き、お金の大切さを理解してもらえるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に年賀状を書いたり、機会があれば電話の取次ぎをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに季節の花や手作りの張り絵などを飾っています。冬の空気の乾燥時期には加湿器を使っています。季節に応じた適切な温度や湿度で過ごせるように環境整備に努めています。	共用空間には、利用者と職員の共同作品や利用者の手作りの作品を飾り、季節を感じる植物などを置き、居心地の良い空間作りをしています。一年を通して快適に過ごせるための、温度や湿度等に配慮され環境整備に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士、ホールのソファやテーブルの椅子に座り、隣同士仲良く話している姿が見受けられます。思い思いに好きな場所で過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にご自分のテーブルや椅子を置かれたり、出窓に小物を置いたりしています。タンスの中には季節にあった衣類を入れてあります。	利用者の馴染みの物の持ち込みなど、居心地よく過ごせる居室作りに配慮されています。快適に安全安心に過ごせるための工夫をされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室に手すりを設置しており、バリアフリーで安全に生活ができるようにしています。必要に応じて見守りや声かけ、介助を行います。		